

「立命館大学実践教育学会 第3回研究大会」を開催しました

第3回大会

2019.10.27

新しい学習指導要領と教科教育の展開
—主体的・対話的で深い学びの実現に向けて—

立命館大学実践教育研究会第3回研究大会を2019年10月27日(日)に立命館大学朱雀キャンパスにおいて開催いたしました。以下、概要を報告いたします。

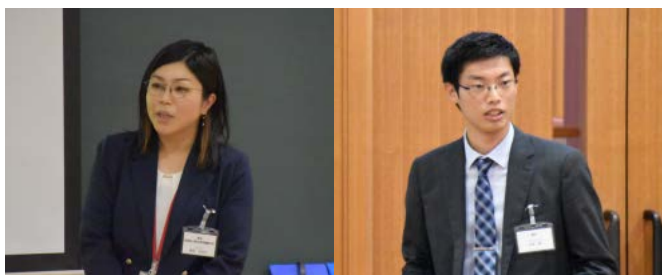


【実践研究報告会】 10:30 ~ 12:00

実践研究報告会では本研究科院生の津田江利子氏(現職教員、臨床教育コース)が、「高等学校における通級指導の試み—生徒間交流を軸にして—」と題して発表を行いました。

“高等学校生徒と高等養護学校生徒による出会い・交流・居場所づくり”をサブテーマに、具体的な事例報告も含めての現状報告および今後の課題が示されました。

次に、本研究科修了生の山本衛氏(現職教員、臨床教育コース)が、「高校生の自己受容と自己形成」と題して発表を行いました。“「ありのままの自己」を受け入れることでアイデンティティ形成を促す”ための実践報告(SGE, 自分史作成)が自己受容を深めることやアイデンティティ形成を促す教育活動として有効であることが示されました。



【講演会】 13:30 ~ 14:50

講演会では、高木展郎先生(横浜国立大学名誉教授)に「評価が変わる、授業を変える—資質・能力を育てるカリキュラム・マネジメントとアセスメントとしての評価—」と題して講演いただきました。

新しい学習指導要領やカリキュラム・マネジメント、授業デザインを柱に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての資質・能力の育成やその教育内容、学習評価の改善、さらに、これからの時代に求められる教師像についてもお話いただきました。

【シンポジウム】 15:00 ~ 17:00

講演会終了後には、「新しい学習指導要領と教科教育の展開」と題したシンポジウムを実施しました。シンポジストおよびテーマは以下のとおりです。

高木展郎(横浜国立大学名誉教授)

・新しい学習指導要領と教科教育の展開 —国語科教育の視覚から—

山下芳樹(立命館大学産業社会学部教授)

・2017年度公示の学習指導要領理科を考える

角田将士(立命館大学産業社会学部准教授)

・これからの社会系教科授業に求められるもの—「見方・考え方の成長」を意識した授業づくり—

コーディネーターは、本学の教職研究科井上雅彦教授、高木先生にはコメンテーターも務めていただきました。

※シンポジウム終了後、朱雀キャンパス1Fカフェテリアにて情報交換会を行いました。

